

「安全に楽しく」エンジョイレフリング考察

○鈴木 道男（どんぐりラグビークラブ）



キーワード レフリング、安全、エンジョイラグビー、生涯スポーツ

【緒言】 激しいコンタクトプレーのあるラグビーを生涯スポーツとして普及させるためには、「安全」かつ「楽しく」という理念が大切である。またゲームを進行するためには、安全に配慮した芝生のグラウンド設備はもちろんだが、対戦チームアレンジ、レフリング運用の技術面を充実させなければならない。筆者のレフリング経験をもとに、「エンジョイレフリング」について提案する。

(1)目的 エンジョイレフリングとは、幅広い年齢構成、いろいろなスキルの選手で構成されたチームが、勝敗よりもプレー、ラグビーのエッセンスそのものを楽しむことをサポートするレフリング技術である。「安全に楽しく」というコンセプトのゲームをコントロールするのは、「エンジョイレフリング」である。これに対してラグビー協会などが主催する大会、リーグ戦などのゲームで、同じ年齢構成、スキル、経験レベルのチーム同士が競技として勝敗を争うものはコンテストラグビーと位置づけられ、レフリングは競技規則を厳密に運用する「コンテストレフリング」として区別される。エンジョイレフリングを理解し、円滑な運用技術を研究し普及させることは、新たなラグビーファンを獲得し、生涯スポーツ発展に大きく寄与するものである。

(2)方法 どんぐりラグビークラブ主催「関西シニアラグビーフェスティバル」シニアゲーム、クラブチーム交流試合、その他、レフリー担当などで適用した。

【ゲームの目的設定】最初にゲームコンセプトがエンジョイラグビーかコンテストラグビーか、参加者に対して明確にしておくことが大切である。

【対戦アレンジ】事前調整、確認は、重要である。年令の調整 出来るだけ年齢を合わせる。筋力パワーなどは維持できても、反射神経、反応速度などは加齢とともに鈍化する。キックオフから5分程度で対戦チームのレベルを判断、ゲーム中も選手の動きの観察を続けていく。レベルに差があり、進行がワンサイドゲームとなる場合は、劣勢側のモチベーションが下がり、最終的には双方が楽しむことは出来ない。レフリングのゲームコントロールによってノーサイドまで両者ともモチベーションを維持する必要がある。選手とのコミュニケーション、判定が微妙な場面でのルール適用吹き分けなどで試合コントロールする。

(モチベーション) 笛、コールは穏やかに行い、試合中に選手の足が止まらないように配慮する。(スクラム) 場合によりノンコンテストを推奨、ノープッシュなど柔軟に適用、安全に配慮し、体力を温存しながらゲームを楽しむ。(ラック・モール) 無用なオフサイド、倒れ込み、などの反則を防止するために整理を早く行う。(ラインオフサイド) 瞬発力のある若い選手の飛び出すディフェンスを制限、コントロールする。(アドバンテージ) スキルの高い選手、若いチームのアドバンテージルール適用を制限する。(グレーゾーンの判定) どちらの側の反則かわからないグレーゾーンの判定時のペナルティなど適用は、モチベーションの落ちたほうに有利に判定して、最後までゲームを盛り上げる。(トライ) どちらか一方が、ノートライとなるピリオドがないようにコントロールすることを推奨する。試合後のレセプションを盛り上げるための演出である。(ゲームピリオド) それぞれ一試合と考えるレフリングをする。選手編成は一期一会、その1ピリオドだけ出場という場合もあるので、すべてのピリオドごとでゲームが完結することを目指す。集中力を維持するためには、15分程度のショートピリオド進行を推奨する。

(3)結果と考察 年齢やレベルに差があるゲームにエンジョイレフリングを適用することで、最後までゲームを楽しむことができた。コントロールするレフリーは、選手のゲーム心理を読みながらリードする。これはセンスと豊かな経験が必要であり、これらをアドバイスできるレフリーコーチを養成する。参加者がゲーム中に、エンジョイレフリングを意識することにより、ラグビーがより安全で、より楽しいゲーム進行が可能となる。

(4)まとめ エンジョイレフリングのゲームコントロールは、「安全に楽しく」エンジョイラグビーを盛り上げるのには必須である。ノウハウを蓄積し、公開し、普及することは、ラグビーを楽しむオプションを増やし、生涯スポーツとして新たな参加者を呼び込める効果がある。選手構成などギャップのあるゲームにエンジョイレフリングを適用すると、ゲームが盛り上がり、生涯スポーツとして高い満足感が得られ、参加選手や観衆も一緒に楽しむことができる。